



2006 年

No.31

6 月

Japanese Society of Alternative to Animal Experiments

日本動物実験代替法学会

目 次

---

1	日本動物実験代替法学会第 19 回大会を終えて . . . . .	2
2	2006 年一般会計予算 . . . . .	4
3	JaCVAM 室長就任挨拶 . . . . .	5
4	日本動物実験代替法学会第 20 回大会開催案内 . . . . .	6
5	第 6 回国際動物実験代替法会議について . . . . .	6

---

# 日本動物実験代替法学会第 19 回大会を終えて

第 19 回大会長 田中憲穂

(財) 食品薬品安全センター

第 19 回大会は 2005 年 12 月 1-2 日にかけて伊勢原市の「フォーラム 246」で開催し、多くの会員に出席いただき大変盛況に終える事ができました。ここに厚く御礼を申し上げます。また本大会の開催は、賛助ご支援下さいました多くの企業ならびに関連団体の皆様のご協力により成し得たことも申し上げておきたいと思っております。第 19 回大会開催の概要を紹介させていただきます。

## 参加者

- \*大会参加者：会員 108 名、非会員 103 名、  
学生 15 名
- \*招待演者：17 名（海外 5 名）
- \*招待参加者：15 名

## 内容

- \*一般演題（ポスター発表）：44 題
- \*シンポジウム 3 分野：
  - (1)発がん性試験の代替を目指す最新の展開
  - (2)代替法最前線：In vitro Toxicology のブレイクスルーを目指して
  - (SCOT 特別研究 資生堂共催)
  - (3)感作性試験代替法の現状

\*市民公開フォーラム： 獣医学部学生が考える代替法教育

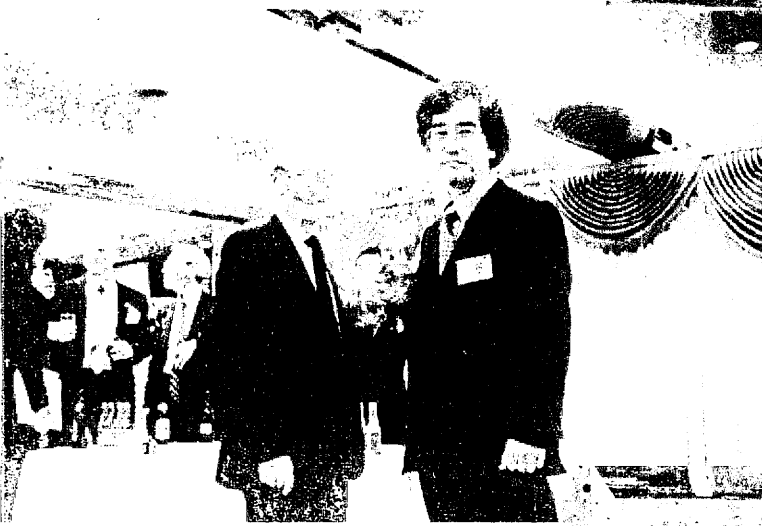
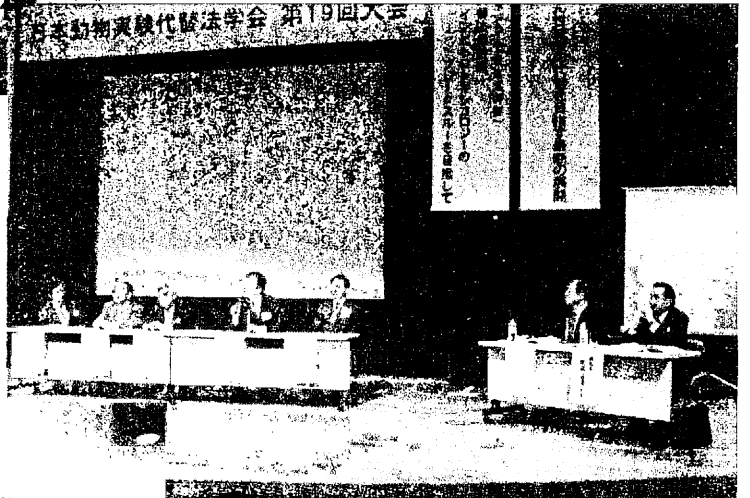
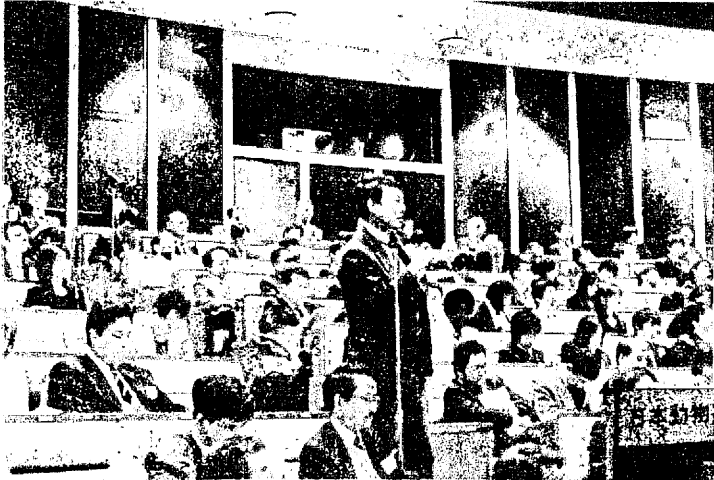
\*JaCVAM 設立記念講演会： 一代替法の国際協調をめざして

## 受賞

- \*学会賞：小野 宏会員、佐藤温重会員
- \*ゴールドプレゼンテーション賞：In vitro 皮膚感作性試験：h-CLAT (human Cell Line Activation Test)の日本における共同研究(第 1 報)；足利太可雄、岡本賢二、水野 誠、山田貴亮、吉田真由美、佐藤 淳、児玉達治、大田尚子、長谷川靖司、岡本裕子、桑原裕史、小坂七重、菌さき子、大野泰雄（資生堂、花王、カネボウ化粧品、コーセー、日本メナード化粧品、ポーラ化成工業、ライオン、国立衛研）

## 賛助

- \*賛助企業：21 社
- \*企業展示：9 社、広告：4 社



## 2006年一般会計予算

収 入(円)		支 出(円)	
項 目	予算額	項 目	予算額
繰越金	3,500,000	特別事業	
年会費収入		研究助成	1,000,000
計5,000円×300名	1,500,000	論文賞	100,000
新入会費収入		大会開催補助	1,000,000
2,000円×20名	40,000	共同研究経費(バリデーション)	100,000
賛助会費収入		編集関連費用	
特別賛助会員		学会誌発行費用	2,000,000
500,000円×6口	3,000,000	ニュースレター発行費用	250,000
一般賛助会員		ホームページ関連費用	50,000
50,000円×10口	500,000		
法人会員		国際学会関係	
100,000円×4口	400,000	国際会議役員派遣費用	250,000
雑収入			
銀行利子	1,000	各委員会経費	
別刷追加代	100,000	企画委員会	100,000
		国際交流委員会	50,000
		財務委員会	50,000
		規約改定委員会	100,000
		バリデーション委員会	100,000
		評価委員会	50,000
		広報委員会	50,000
		学会運営費用	
		庶務・会計幹事費用	10,000
		会議費	50,000
		旅費・交通費	200,000
		学会事務局費用	1,000,000
		振込手数料	10,000
		予備費	2,521,000
合計	9,041,000	合計	9,041,000

2005年会計幹事

2005/11/04作成

奥村 秀信 作成

# JaCVAM 室長就任挨拶

JaCVAM 室長 小島 肇

この度、国立医薬品食品衛生研究所 生物試験研究センター 薬理部 新規試験法評価室（通称：JaCVAM：Japanese Center for the Validation of Alternative Methods）の室長として昨年末に就任致しました小島 肇です。これまで日本メナード化粧品（株）総合研究所に勤務し、化粧品や健康食品の安全性評価に携わってまいりました。長年に渡り、化粧品、医薬部外品や特定保健食品の安全性評価に求められる変異原性試験からヒト使用試験まで、すべての試験法を経験するとともに、代替法の研究開発を長年のライフワークにしてきました。この経験を生かし、今後は日本の 3 Rs の発展に向け、努力する所存です。よろしくお願ひ致します。

さて、設立者の大野泰雄先生（国立医薬品食品衛生研究所 副所長）から、素晴らしい JaCVAM という名前を頂きました。この名称は EU にある ECVAM（European Center for the Validation of Alternative Methods）とよく似ており、Replacement を目的にヒト細胞の利用を中心とした代替法の開発、バリデーションと評価を行うという意味でも類似した施設にしたいと考えております。しかし、その財政基盤、規模などは本家に遠く及ばないものであり、まだまだ比較するのもおこがましい存在であります。ただ、国立医薬品食品衛生研究所 生物試験研究センターに支援体

制が確立され、徐々に組織も整いつつある状況です。

JaCVAM のもう一つの使命は、Replacement 以外にも、他の 3 Rs を強く意識したものでなければならないと考えております。その目玉が Reduction を中心とした試験法のバリデーション、評価です。医薬品や化学物質の評価において、現段階では動物実験を用いず、代替法のみでのリスクアセスメントは不可能です。そこで、トキシコゲノミクスを中心とした omics、遺伝子改変動物などの手法を利用し、ヒト臨床評価法の整備による現試験法の改良が必要と考えています。これにより、実質的な実験動物数の削減を進めたいと考えております。

最後の一つ、Refinement は評価指標が難しく、感覚的な判断になりやすい分野ではありますが、客観的な指標の開発も重要な課題と考えています。

これらを多岐の試験方法において科学的に 3 Rs を推進することは、難しいと感じる一方、日本の研究者のレベルは ECVAM や ICCVAM (Interagency Coordinating Committee on the Validation of Alternative Methods) に寄与する海外の専門家に匹敵する、あるいはそれ以上であると実感しております。皆様のご協力のもとに、今年から、質量ともに、少しでもその差を埋めて生き、名実ともに 3 極の国際協調体制を早期に確立したいと考えております。どうか積極的なご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

# 日本動物実験代替法学会第20回大会開催案内

表記大会は、以下の要領で開催することと致しましたので、ご予定下さい。内容の詳細は決まり次第ご連絡しますが、WC2007 東京のサテライト会議の開催が予定されている中国・韓国に加えてインドから代表的研究者をお招きし、アジア地域での3Rの広まりを議論するシンポジウム、より簡便かつ高度な代替法への利用が期待される新技術に焦点を当てたシンポジウム、特に代替法3Rの教育に関するシンポジウム、などを主な柱とする予定です。例年通り、口演はシンポジウムやワークショップのみとし、一般口演は全てポスター発表とすることで、より密な議論を促進したいと考えております。関連分野の多数の研究者・行政・市民の方々の参加をお待ち申し上げております。何卒宜しく願い申し上げます。

東京大学大学院・医学系研究科・疾患生命工学センター／生産技術研究所  
酒井 康行

- 日時： 2006年12月8日(金)・9日(土)
- 会場： 東京大学駒場IIキャンパス内・総合研究実験棟(An棟)2階コンベンションホール(口演)・隣接するホワイエ(ポスター)および棟内の各種会議室(〒153-8505 東京都目黒区駒場4-6-1)。会議場所の詳細は以下のウェブページをご覧ください。<http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/map/index.html>
- 大会事務局：
  - ・東京大学生産技術研究所 物質・環境系部門 酒井康行研究室内
  - ・TEL 03-5452-6352, FAX 03-5452-6353,
  - ・E-MAIL [sakaiyas@iis.u-tokyo.ac.jp](mailto:sakaiyas@iis.u-tokyo.ac.jp)
- 懇親会：12月8日(金)夜、ホワイエにて

## 第6回国際動物実験代替法会議について

(6<sup>th</sup> World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences (WC6))

以下の予定でWC6が開催されます。

主催：Alternative Congress Trust (ACT)、日本動物実験代替法学会、日本学会協議

大会長：大野泰雄、Dr. Horst Spielmann、副大会

長：田中憲穂、事務局長・国際委員会委員長：林 真、

科学委員会委員長：黒澤 努、国内委員長：板垣 宏、国内委員会事務局：小島 肇

共催学会：日本トキシコロジー学会、日本実験動物学会、日本環境変異原学会、日本実験動物環境協議会、日本組織培養学会、日本実験動物医学会

後援：厚生労働省、環境省、東京都、文部科学省、経済産業省、International Union of Toxicology、International Congress on Laboratory Animal Science (希望)

開催時期:平成 19 年 8 月 21 日(火)～8 月 25 日(土)  
(5 日間)

開催場所:ホテルイースト 21 東京(東京都江東区  
東陽町)

サテライトシンポジウム:会議の前後に名古屋、京  
都、ソウル及び北京での開催が予定されている。

公用語:英語(講演によっては通訳をつけることを  
予定している。)

会議の趣旨:

- 1) 生命科学研究における動物福祉の向上と動物実験代替法開発を促進する。
- 2) 科学の進展や生物や疾患への理解を深めるために動物実験が必要であるとの認識を醸成する。
- 3) 科学者と社会とのコミュニケーションを促進する。

会議の目標:

本会議は上記趣旨に則った講演や発表を通じて、教育・研究・試験における 3Rs 進展状況を概観するとともに、代替法の状況に関する現実的理解を醸成し、動物実験が臨床研究や *in vitro* 試験法とともに科学の発展に資することの理解や生物や疾患への基本的理解に貢献し、動物愛護運動者と学会との間の対話が促進されることが期待される。また、代替法分野では、2009 年に予定されている EU の化粧品の安全性評価のための動物実験禁止処置への努力の概観、及びそれに向けての最終戦略の構築とアジアにおける動物福祉と代替法研究の現状分析、アジアにおける代替法研究の促進、また、代替法学会活動の活性化が記載される。動物福祉の分野においても、世界的な動物福祉の状況と改正動愛法の影響を概観するとともに、本会議を通じた検討により、動物実験委員会のレベルアップ、第三者による動物実験施設と実験の査察の一般化が期待される。

日本開催の意義:

会議は上記の会議の趣旨と目標に沿って運営されるが、今回は特にアジアからの代替法発信を意図している。*in vitro* 試験への置換に関する研究分野では、EU 化粧品指令第 7 次改正で 2009 年に動物実験が禁止される試験法の代替法や日本およびア

ジアの代替法開発に関するセッションを予定している。また、動物福祉やその教育・普及に関する研究分野では、「日本およびアジアでの動物福祉と教育に関するセッション」等を予定している。この国際動物実験代替法会議の成果は、アジアの代替法研究の促進と連携強化とアジアにおける動物福祉と教育の促進等につながることを期待される。また、市民との対話の重要性については、日本動物実験代替法学会は以前より重視しており、動物福祉団体や動物実験に反対する団体の代表者をシンポジウムに呼び、対話を行って来た。今回の国際会議においても小中学生や地域住民を対象にした場を設けられないか検討を進める所存である。この会議により、わが国の①新規代替法の開発と評価の促進、②動物福祉と教育の促進、③アジアとの連携構築、④欧米との連携強化、⑤研究者と動物福祉・愛護団体の連携強化、および⑥若手研究者の育成につながることを期待される。

開催決定に至る経緯:

日本動物実験代替法学会は国際的に唯一の 3R の促進を目指す学会として、1982 年に研究会として設立されて以来、「動物実験の代替法にかかわる研究、開発、教育、調査等を推進し、その成果の普及を行う」活動を行ってきた。1990 年に学会として改組され、また、2002 年には日本学術会議に学会として登録された。また、国際会議開催を計画し、資金を蓄積してきた。一方、2005 年にドイツ、2008 年にスペインでの開催が予定されていたが、2011 年は決まっていなかった。そこで平成 15 年 1 月 27 日の動物実験代替法学会運営委員会で国際学会の誘致について審議し、①国際学会開催基金 1000 万円を本来の目的に使用すべき。②動物実験代替法について我国の認識を高め、代替法研究活発化のためには国際学会開催が有効。③2011 年はアジアの順番であり、日本で行うのが適当。④前回のニューオーリンズ会議では 600 人位の参加者であり、質素にやればさほどお金はかからない、等の理由から 2011 年の大会に立候補する事とした。また、その時まで現役でいる黒澤 努先生が会長としてふさわしいとされ、国際交流委員会の今井弘一先生を中心として誘致活動を開始した。その後、諸処の事情からス

ペインが 2008 年の開催を自発的に辞退する可能性が示唆され、それならば第 6 回会議を日本で開催しても良いとされた。また、学術の進歩の早さと、2009 年の EU における動物実験廃止期限を鑑みると、2007 年に開催するのが良いとその方針が決まり、開催時期が早まった場合には当時の学会長であった大野が大会長となることが決まった。また、内容を充実させるためには関連学会の支援を得るべきとされた。この方針が評議員会、総会でも認められ、また、日本トキシコロジー学会、(社)日本実験動物学会、日本環境変異原学会、日本実験動物環境研究会からも上記の会議の趣旨への賛同と協賛を得ることができ、立候補した。その結果、今井先生の活躍と ZEBET の Spielmann 博士の後押しを得て、また、会議主催団体である Animal Congress Trust の Andrew Rowan 会長 (Human Society of the United State の副会長) を始めとする委員の支援を受け、2007 年に日本での開催が平成 15 年 11 月の ACT の会議で決定され、平成 16 年 2 月 23 日付けで通知された。また、日本周辺以外の参加国からの旅費として、150,000 ドルを ACT が支援すると通知された。その後、日本学術会議からの支援も受けることが決まった。

#### 開催準備状況：

日本での開催決定を受けて、日本動物実験代替法学会は、日本開催準備のため、第 6 回国際動物実験代替法会議国内運営委員会を設置し、開催の具体的な準備を開始するとともに、前記の大会の趣旨、目標、開催日、会場の案を作成し、昨年 8 月のベルリンでの第 5 回大会最終日に開催した予備国際運営委員会で示し、大筋が承認された。また、昨年 12 月の大会後に第 1 回国際運営委員会を開催した。その後、月に 1 度ずつ国内運営委員会の幹事会を開催し、準備を進めている。なお、入札により大会事務委託先を近畿日本ツーリストに決めた。また、動物実験代替法についての社会の関心を高めるため、中京、関西地区でのサテライトシンポジウムを開催することとした。また、大野と板垣国内委員長が韓国に行き、田中副大会長と林国際委員長が中国に行き、それぞれソウルと北京でのサテライトシンポジウム開催の依頼を行った。なお、韓国では今回の訪

問を機に動物実験代替法に関するシンポジウムが開催され、その後、韓国動物実験代替法学会が設立され、朴在鶴ソウル大学教授が初代学会長に選任された。お祝いを申し上げたい。

会議では、3R 教育、知識管理と情報、毒性学・バリデーション、行政問題、環境毒性学、生物製剤とワクチンの安全性、新科学技術、3R の国際化等もメインテーマとして取り上げる予定である。上記のテーマに関して、基調講演、シンポジウム或いはワークショップを設定する。また、多数のポスター発表を期待している。それぞれの分野において、アジアからもなるべく多くの講師を迎えるとともに、若い研究者の参加支援を行いたいと考えている。

以上 (文責：大野泰雄)



日本動物実験代替法学会事務局  
東京都文京区本郷 7-2-4 浅井ビル 501 号室 学会事務局  
TEL:03-3811-3666 FAX:03-3811-0676  
E-mail : [gakkai@g-jimukyoku.jp](mailto:gakkai@g-jimukyoku.jp)

発行：日本動物実験代替法学会  
会長：田中 憲穂  
担当：広報委員会 委員長 秋田 正治  
学校法人 鎌倉女子大学 家政学部 管理栄養学科  
〒247-8512 神奈川県鎌倉市大船六-1-3  
TEL:0467-44-2111 FAX:0467-44-7131  
E-mail:kiri@dance.plala.or.jp



幸せになる覚悟はある。

——行くわよ、ワタシ。深田恭子



[新発売] —— その肌、宝石の輝き。 ——

12種類の和漢植物エキス(トリートメント成分)配合

メナード 薬用リシアルEX

<医薬部外品>全7品

5,500円~6,500円(税込5,775円~6,825円)

気になる肌の色と質感、磨き上げられたように、美しく。自信が輝く、自慢の肌へ。

MENARD

商品のお米め・お問い合わせは、メナードレディまたはフリーダイヤル、メナードホームページまで。

☎ 0120-164601 [www.menard.co.jp](http://www.menard.co.jp)

[全国共通・無料]受付時間:10:00AM~8:00PM(日曜・祝日を除く)

# ポジコンAM エームス試験用

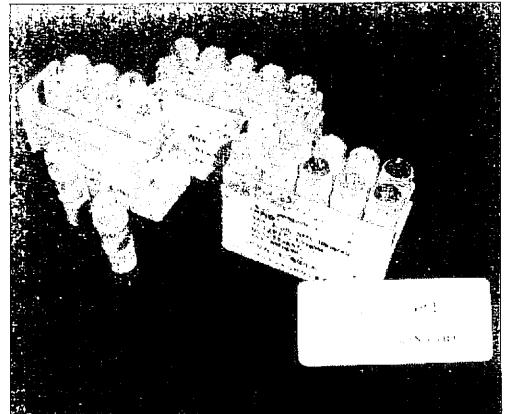
## 調製済み陽性対照コントロール

とつても便利!! 解かすだけ

- 使用濃度に調製済み
- 融解後、そのまま必要量をシャーレに添加

これは安心!! データ付

- 復帰試験データと濃度分析データ付



ポジコンAMマルチセット!! コシさえあれば

- 新規化学物質のエームス試験がすべて行えるよう、化学物質と使用濃度を、組み合わせてセット化

### ポジコンAMマルチセット内容

物質名	濃度	溶媒
2AA	5, 10, 20*, 100 $\mu$ g/ml	DMSO
AF-2	0.1*, 1.0 $\mu$ g/ml	DMSO
NaN <sub>3</sub>	5.0 $\mu$ g/ml	注射用水
9AA	800 $\mu$ g/ml	DMSO

\*は各2本、他は1本

305-51791    -80℃    ポジコンAMマルチセット    0.5ml×10本

— 単品10本セットのシングルセットもご用意しております。 —

308-51801    -80℃    ポジコンAMシングルセット2AA(20 $\mu$ g/ml)    0.5ml×10本

305-51811    -80℃    ポジコンAMシングルセットAF-2(0.1 $\mu$ g/ml)    0.5ml×10本

★オリエンタル酵母工業(株)製 S9、コファクター等、変異原性試験用試薬関連商品を多数取り揃えておりますのでお問い合わせ下さい。

原薬管理や、調製時の煩わしさより解放!

販売元

**和光純薬工業株式会社**

本社：〒540-8605 大阪市中央区道修町三丁目1番2号  
 東京支社：〒103-0023 東京都中央区日本橋本町四丁目5番13号  
 フリーダイヤル：0120-052-099    フリーファックス：0120-052-806  
 URL：http://www.wako-chem.co.jp  
 E-mail：labchem-tec@wako-chem.co.jp

発売元

**オリエンタル酵母工業株式会社**

バイオ事業部

〒174-8505 東京都板橋区小豆沢3丁目6番10号  
 TEL.03-3968-1192    FAX.03-3968-4863  
 URL：http://www.oyc.co.jp  
 E-mail：fbi@oyc.co.jp